

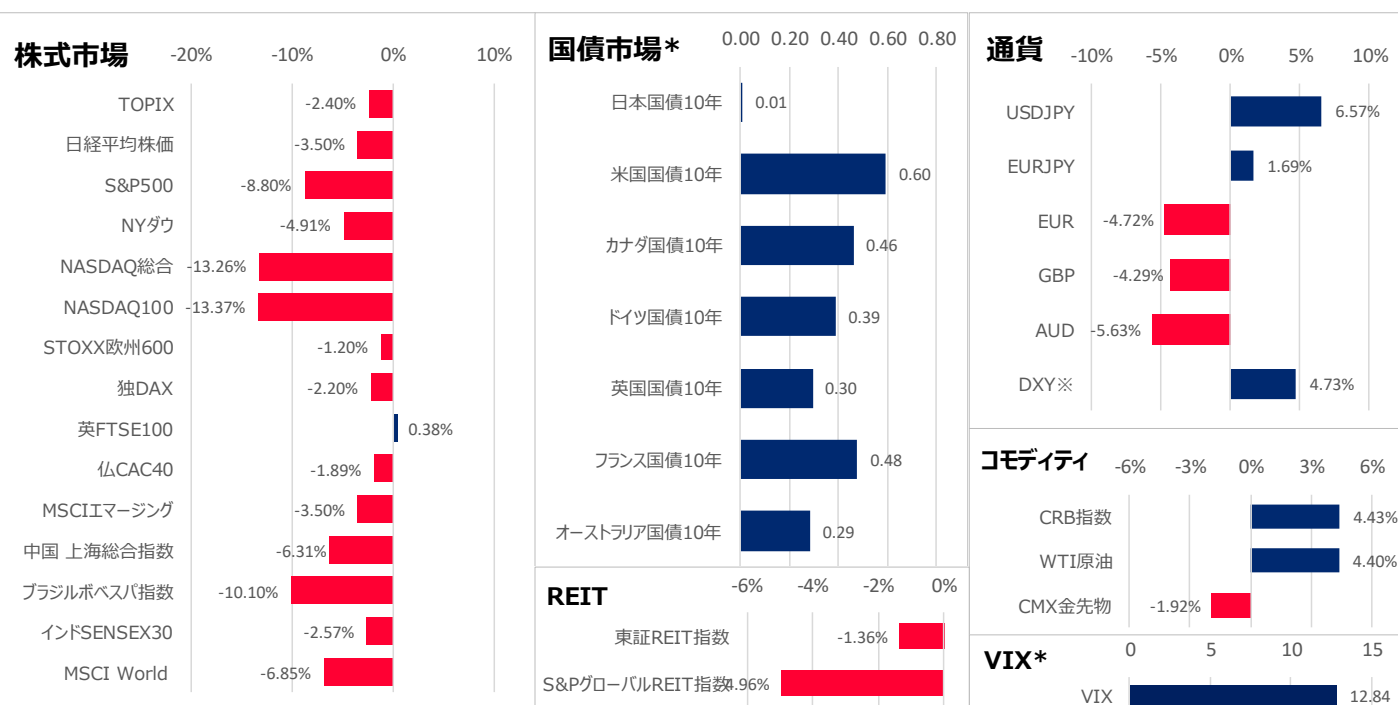
マンスリーレビュー&アウトルック

2022年5月

2022年4月の市場概況

- ・ **<株式> グローバル株は急反落。**インフレの抑制に向けて米国で積極的な金融引き締めが行われるとの見方が強まったことや、今後の世界経済の悪化懸念からリスク回避の動きが強まり、米ナスダック総合指数が大幅安となるなどグロース株を中心に下げ幅を拡大した。米国の下落幅が拡大するいっぽう、英国は小幅に上昇したほかスイスは限定的な下落に留まった。新興国では、インドネシアなどは上昇したが、ブラジルや台湾、中国などが大幅に下落した。
- ・ **<債券> 主要国の長期国債は大幅続落。**インフレ抑制を目的に今後の世界的な金融引き締めの動きを織り込みつつ、主要国債利回りは上昇（債券価格は下落）基調で推移した。下旬以降、株価下落などリスク回避の動きが強まったことを受けて主要国債利回りの上昇は一服するいっぽう、新興国債利回りの上昇基調は継続した。
- ・ **<為替> 金融政策の方向性とリスク回避の動きから米ドル買い継続。**米連邦準備理事会（FRB）が0.75%の大幅利上げを実施するとの見方も広がるなど、米国の積極的な金融引き締めへの警戒感などから米ドルは主要通貨に対して上昇した。軟調な推移が続くドル円は、金融政策決定会合で金融政策の維持を発表したことで、20年ぶりの水準となる130円台後半に下落した。
- ・ **<商品等> 金は米長期金利の上昇や米ドル高が売り材料となり月末にかけて下落。**原油は米バイデン政権による戦略石油備蓄の大規模放出が嫌気されるいっぽう、ウクライナ情勢を巡る原油供給リスクが意識されて買われるなど、方向感の無い展開となった。VIXは、米金利上昇への警戒感などを背景に米国株が下落したことを受けて、中旬以降大きく上昇した。

2022年4月（3/31～4/29）のグローバル市場動向



※前月末比騰落率、*は騰落幅。

※DX¥は主要通貨に対する米ドルの強さを示した指数。

株式

プラス要因



- 中国でのロックダウン（都市封鎖）解除
- インフレのピークアウト

マイナス要因



- ウクライナ情勢の混迷
- インフレの加速と消費意欲の減退

	2022/4/29	過去1か月	3か月	年初来
TOPIX	1,899.62	-2.40%	0.19%	-4.65%
日経平均株価	26,847.90	-3.50%	-0.57%	-6.75%
S&P500	4,131.93	-8.80%	-8.50%	-13.31%
NYダウ	32,977.21	-4.91%	-6.13%	-9.25%
NASDAQ総合	12,334.64	-13.26%	-13.38%	-21.16%
NASDAQ100	12,854.80	-13.37%	-13.90%	-21.23%
STOXX欧州600	450.39	-1.20%	-3.94%	-7.67%
独DAX	14,097.88	-2.20%	-8.88%	-11.25%
英FTSE100	7,544.55	0.38%	1.07%	2.17%
仏CAC40	6,533.77	-1.89%	-6.65%	-8.66%
MSCI Emerging (現地通貨建て)	154,470.98	-3.50%	-7.70%	-9.35%
中国 上海総合指数	3,047.06	-6.31%	-9.35%	-16.28%
ブラジルボブス指数	107,876.16	-10.10%	-3.81%	2.91%
インドSENSEX30	57,060.87	-2.57%	-1.64%	-2.05%
MSCI World (現地通貨建て)	9,642.16	-6.85%	-6.42%	-11.01%

国内株式：FRBが金融引き締めを積極化するとの見方や新型コロナウイルスの感染拡大から上海でロックダウン（都市封鎖）が続く中国の景気減速懸念なども重荷となり、下落基調で推移した。混迷が続くウクライナ情勢や世界的なインフレ圧力の高まりなど外部環境の不透明感に加え、企業の業績見通しが保守的であることなども重石となり、上値の重い展開を想定する。

米国株式：FRB当局者による積極的な利上げ実施を示唆する発言を受けて米国金利が上昇したことや景気後退懸念が高まったことなどが嫌気された。中旬にかけて、インフレ警戒感が和らいだことを受けて下げ止まる場面もあったが、市場予想を下回る決算内容などが嫌気されて、下旬以降も下値を試す動きが続いた。下げ過ぎの反動から急反発する場面もあろうが、今後の景気に対する弱気な見方が強まっていることから、景気指標などに一喜一憂する不安定な展開を見込む。

欧州株式：ロシアとウクライナが第5回停戦協議を開始したことなどを材料に上昇して始まった。しかし、西欧諸国の対ロシア経済制裁による景気減速の警戒感や欧州中央銀行（ECB）が年内に利上げを実施するとの見方などが売り材料視されて、下旬以降に下げ幅を拡大した。インフレ圧力の高まりや欧州連合（EU）によるロシアへの追加制裁実施による景気への悪影響などが意識されて、欧州株の上値は重くなる。

新興国株式：米国の積極的な金融引き締めを警戒した世界的なリスク回避の動きや、新型コロナウイルスの感染から中国でロックダウン（都市封鎖）が20以上の都市に拡大し、世界景気の先行き不透明感が強まったことなどを背景に、下落基調で推移した。ブラジルなどで継続的な利上げが実施されているもののインフレ抑制の動きが見られないことや足元の世界的な景気減速の動きから、新興国株は主要国株にアンダーパフォームする展開を想定する。

債券

プラス要因  □ 景気・インフレ鈍化等による、過度な金融引き締め観測の剥落
□ 中国のロックダウン（都市封鎖）長期化等に伴う世界景気の鈍化

マイナス要因  □ 世界的なインフレ圧力と金融引き締めの継続
□ ウクライナ情勢の落ち着き等による、世界景気の再加速

	2022/4/29	過去1か月	3か月	年初来
(国債利回り)	(利回り %)	(利回り騰落幅)		
日本国債10年	0.23	0.01	0.05	0.16
米国国債10年	2.93	0.60	1.16	1.42
カナダ国債10年	2.86	0.46	1.09	1.44
ドイツ国債10年	0.94	0.39	0.93	1.12
英国国債10年	1.91	0.30	0.60	0.93
フランス国債10年	1.46	0.48	1.03	1.26
オーストラリア国債10年	3.13	0.29	1.23	1.46
		(トータルリターン…騰落率、スプレッド…騰落幅)		
USD投資適格社債_トータルリターン		-6.58%	-10.99%	-14.51%
USD投資適格社債_対米国債スプレッド	+1.48	+0.23	+0.32	+0.48
USDハイイールド社債_トータルリターン		-3.56%	-5.64%	-8.22%
USDハイイールド社債_対米国債スプレッド	+3.79	+0.54	+0.37	+0.96

日本国債：世界的なインフレ圧力と主要国の長期金利上昇に連れて、日本10年国債利回りは、一時0.25%に上昇した。しかし、前月同様に日銀による指値オペが実施されたことで、月を通して0.2%台前半での推移が続いた。月末開催の日銀金融政策会合では、金融緩和継続姿勢が示された。日銀の金利上昇抑制姿勢が改めて確認されたため、日本国債利回りの上昇余地は限定的になる。

米国債：インフレ警戒感や堅調な経済指標、FRBによる利上げ姿勢の継続等から、上昇基調を強めた。3月開催分のFOMC議事録で、今後数回程度の0.50%幅での利上げ継続の議論が判明する等、一段の金融引き締め観測が広がり、米国10年国債利回りは一時2.98%まで上昇した。年内2%台後半水準までの利上げを既に市場が織り込んでおり、景気鈍化懸念も残ることから、米国債利回りはレンジ内での推移を想定する。

欧州債：当月のECB理事会では、資産購入プログラムを、7-9月期に終了する見込みとし、利上げについては同プログラムが終了してから一定期間後まで行わないとした。仏大統領選は、現職のマクロン大統領の再選となり、大きな相場変動要因とはならなかった。周縁国国債の対独国債利回りスプレッドは、やや拡大した。ウクライナ情勢に不透明感がある一方、インフレ圧力の継続等からECBによる金融引き締めに向けた地ならしが見込まれ、欧州債利回りは上昇基調を見込む。

新興国ドル建て国債：世界的なインフレ圧力、金融引き締め観測の継続等から、新興国ドル建て国債は月を通して軟調な展開となった。対米国債利回りスプレッドは、利上げ継続や景気悪化懸念、前月に縮小した反動等もみられ、やや拡大した。資源価格上昇によるインフレ圧力やロシアによるウクライナ侵攻の長期化、ベース金利となる米国債利回りの上昇で以前と比べ投資妙味が低下していることから、新興国ドル建て国債は軟調な展開が継続しよう。

通貨等

米ドル プラス要因

- 金融引き締め積極化に向けたFRB要人発言
- 地政学リスクの高まりとリスク回避の米ドル買い

米ドル マイナス要因

- 利上げ積極化に伴う米国経済の鈍化
- 米国以外での金融引き締め加速

	2022/4/29	過去1か月	3か月	年初来
USDJPY (米ドル/円)	129.70	6.57%	12.67%	12.70%
EURJPY (ユーロ/円)	136.95	1.69%	5.89%	4.62%
EUR (ユーロ/米ドル)	1.0545	-4.72%	-6.14%	-7.26%
GBP (英ポンド/米ドル)	1.2574	-4.29%	-6.49%	-7.08%
AUD (オーストラリアドル/米ドル)	0.7061	-5.63%	-0.08%	-2.78%
DXY (米ドルインデックス) ※	102.96	4.73%	6.65%	7.62%
CRB指数	308.27	4.43%	20.84%	32.66%
WTI原油	104.69	4.40%	18.76%	39.20%
CMX金先物	1,911.70	-1.92%	6.50%	4.54%
VIX*	33.40	+12.84	+8.57	+16.18
東証REIT指数	1,975.75	-1.36%	1.49%	-4.38%
S&PグローバルREIT指数	206.21	-4.96%	-2.59%	-9.12%

※ DXYは主要通貨に対する米ドルの強さを示した指数

*期間騰落は変化幅

米ドル： 好調な経済指標やインフレ指標の高止まりから、FRBがインフレ抑制に向けて利上げペースを速めるとの見方が強まり、米ドルは主要通貨に対して上昇した。米国や欧州などで金融引き締めの動きが意識されるなか、金融政策に変更がないと見られている日本円の下落が目立った。足元の急上昇に対する反動も意識されようが、他の主要国の金融引き締めの動きと比較し、米国の積極姿勢が目立っていることから、米ドルは堅調な推移を想定する。

ユーロ： ECBは、4月の理事会で金融政策の現状維持を決定した。ラガルド総裁は、資産購入プログラム(APP)の早期終了と年内の利上げ開始の可能性に言及したが、タカ派的でないとの見方から、ユーロは下落基調で推移した。また、ロシアへの追加制裁による欧州景気悪化懸念も売り材料となった。ECBは金融引き締めに向けて動き始めているが、FRBの積極姿勢が先行していることから、ユーロは上値の重い展開になるだろう。

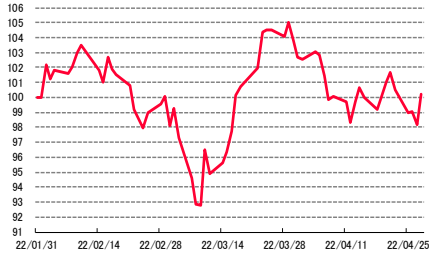
原油： 米バイデン政権による戦略石油備蓄の大規模放出が売り材料視され中旬までは弱含みの動きとなったものの、リビアの主要油田の操業停止やEUによるロシア産原油禁輸への動きなどを背景に月末にかけて上昇するなど、方向感の無い動きとなった。ロックダウン長期化に伴う中国の原油需要減退が懸念されるものの、ウクライナ情勢を巡り原油供給に対する不透明感は根強く、当面は高値圏での動きを見込む。

金： ロシアとウクライナの停戦交渉の不調を背景に中旬までは底堅い動きとなったものの、米長期金利の上昇や米ドル高が売り材料となり、月末にかけて下落基調で推移した。米金利の先高観と米ドル高が重石となり、軟調な推移の継続を予想するが、物価指標の上振れに伴うインフレヘッジの買いや、ウクライナ情勢を巡る地政学リスクの高まりなどから、金を買われる展開にも留意が必要であろう。

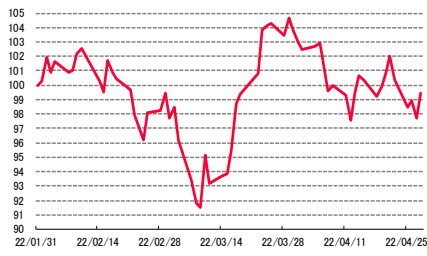
appendix

株式

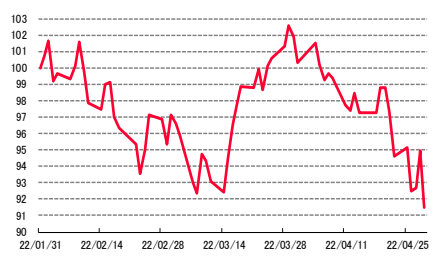
1. TOPIX 株式
終値: 1,899.62 期間騰落率: +0.19% JPY



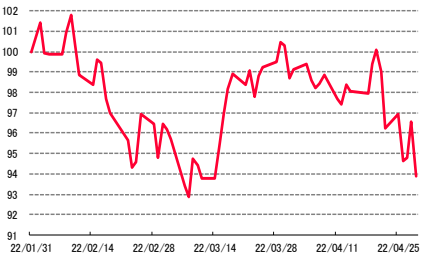
2. 日経平均株価 株式
終値: 26,847.90 期間騰落率: -0.57% JPY



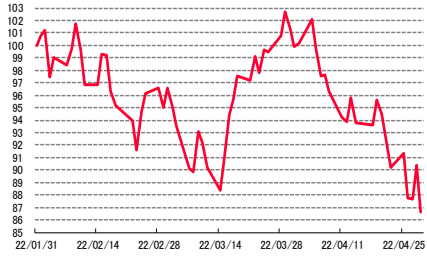
3. S&P500 株式
終値: 4,131.93 期間騰落率: -8.50% USD



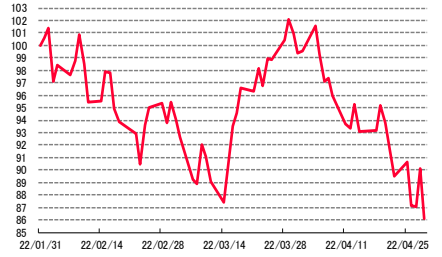
4. NYダウ 株式
終値: 32,977.21 期間騰落率: -6.13% USD



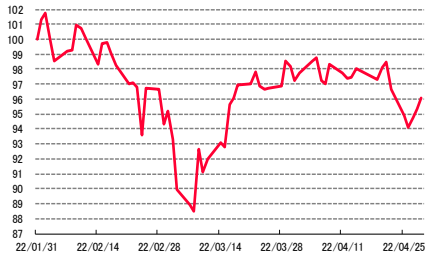
5. NASDAQ総合 株式
終値: 12,334.64 期間騰落率: -13.38% USD



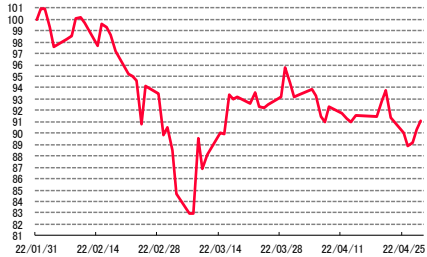
6. NASDAQ100 株式
終値: 12,854.80 期間騰落率: -13.90% USD



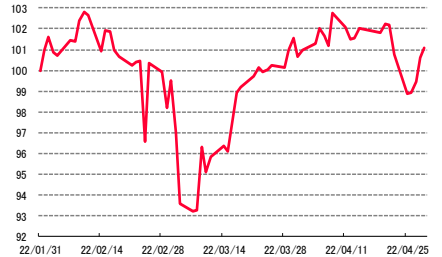
7. STOXX欧州600 株式
終値: 450.39 期間騰落率: -3.94% EUR



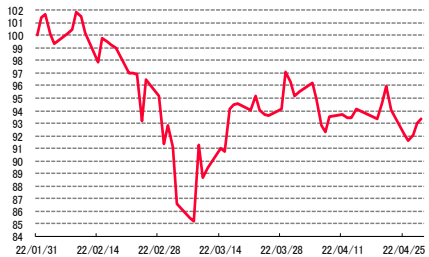
8. 独DAX 株式
終値: 14,097.88 期間騰落率: -8.88% EUR



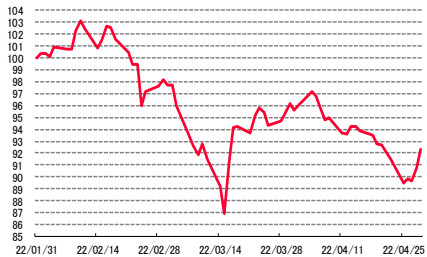
9. 英FTSE100 株式
終値: 7,544.55 期間騰落率: +1.07% GBP



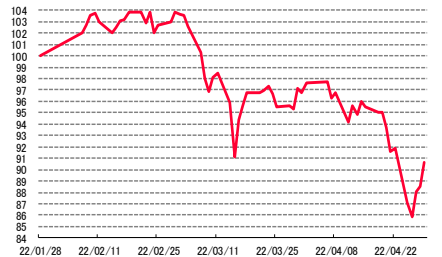
10. 仏CAC40 株式
終値: 6,533.77 期間騰落率: -6.65% EUR



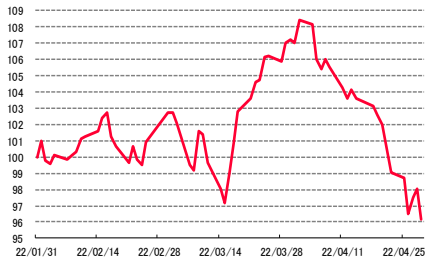
11. MSCIエージング(現地通貨建て) 株式
終値: 154,470.98 期間騰落率: -7.70% USD



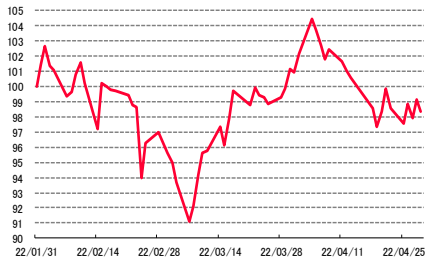
12. 中国 上海総合指数 株式
終値: 3,047.06 期間騰落率: -9.35% CNY



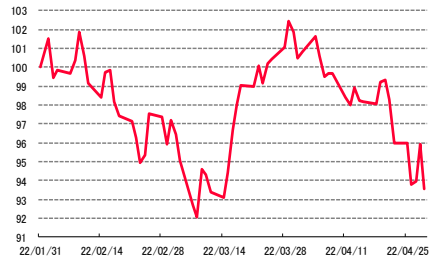
13. ブラジルボバスバ指数 株式
終値: 107,876.16 期間騰落率: -3.81% BRL



14. インドSENSEX30 株式
終値: 57,060.87 期間騰落率: -1.64% INR



15. MSCI World (現地通貨建て) 株式
終値: 9,642.16 期間騰落率: -6.42% USD



※ 直近3カ月(2022年2月~2022年4月)の日足チャートです。起点(2022年1月末日)を100として指数化しています(実数値ベース以外)。
 ※ 各指数につきましては最終ページをご参照ください。
 ※ ブルームバーグデータをもとに弊社作成。
 ※ 最終ページの「当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について」をご確認ください。

appendix

債券

16. 日本国債10年 債券
終値: 0.23 期間騰落幅: 0.05 (実数値ベース) JPY



17. 米国国債10年 債券
終値: 2.93 期間騰落幅: 1.16 (実数値ベース) USD



18. カナダ国債10年 債券
終値: 2.86 期間騰落幅: 1.09 (実数値ベース) CAD



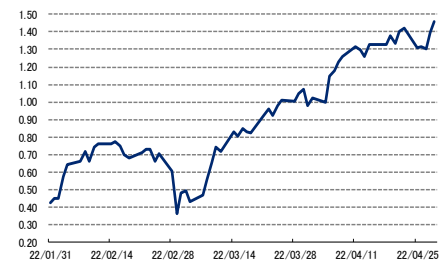
19. ドイツ国債10年 債券
終値: 0.94 期間騰落幅: 0.93 (実数値ベース) EUR



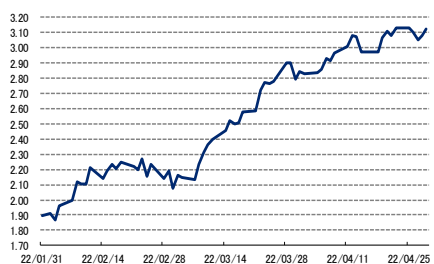
20. 英国国債10年 債券
終値: 1.91 期間騰落幅: 0.60 (実数値ベース) GBP



21. フランス国債10年 債券
終値: 1.46 期間騰落幅: 1.03 (実数値ベース) EUR



22. オーストラリア国債10年 債券
終値: 3.13 期間騰落幅: 1.23 (実数値ベース) AUD



23. USD投資適格社債 トータルリターン 債券
終値: 166.52 期間騰落率: -10.99% USD



24. USD投資適格社債 対米国債スプレッド 債券
終値: 1.48 期間騰落幅: 0.32 (実数値ベース) USD



25. USDハイールド社債 トータルリターン 債券
終値: 2,259.09 期間騰落率: -5.64% USD



26. USDハイールド社債 対米国債スプレッド 債券
終値: 3.79 期間騰落幅: 0.37 (実数値ベース) USD



※ 直近3カ月（2022年2月～2022年4月）の日足チャートです。起点（2022年1月末日）を100として指数化しています（実数値ベース以外）。

※ 各指数につきましては最終ページをご参照ください。

※ ブルームバーグデータをもとに弊社作成。

※ 最終ページの「当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について」をご確認ください。

appendix

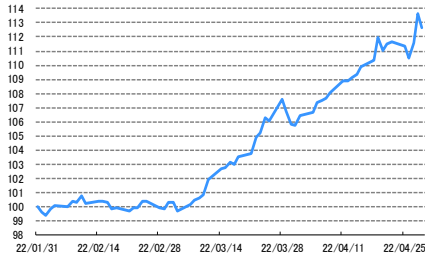
為替/コモディティ/VIX/REIT

27. USDJPY(米ドル/円)

終値: 129.70 期間騰落率: +12.67%

為替

JPY



28. EURJPY(ユーロ/円)

終値: 136.95 期間騰落率: +5.89%

為替

JPY

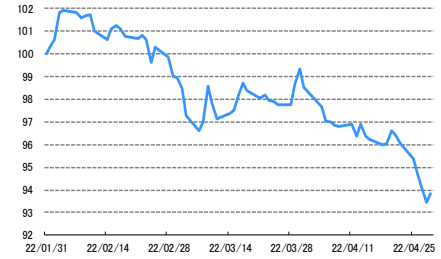


29. EUR(ユーロ/米ドル)

終値: 1.05 期間騰落率: -6.14%

為替

EUR

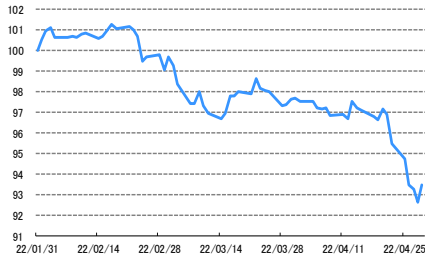


30. GBP(英ポンド/米ドル)

終値: 1.26 期間騰落率: -6.49%

為替

GBP

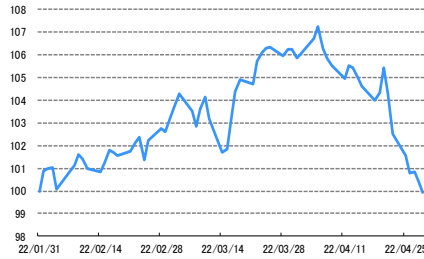


31. AUD(オーストラリアドル/米ドル)

終値: 0.71 期間騰落率: -0.08%

為替

AUD

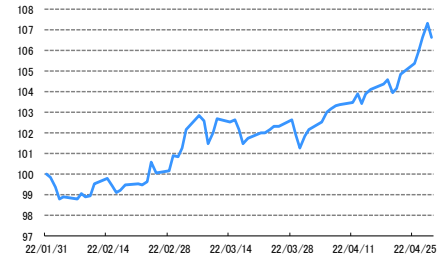


32. DXY(米ドル・インデックス)

終値: 102.96 期間騰落率: +6.65%

為替

USD



33. CRB指数

終値: 308.27 期間騰落率: +20.84%

コモディティ

USD



34. WTI原油

終値: 104.69 期間騰落率: +18.76%

コモディティ

USD



35. CMX金先物

終値: 1,911.70 期間騰落率: +6.50%

コモディティ

USD

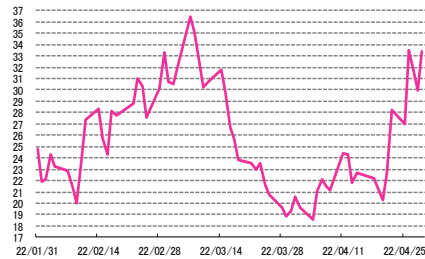


36. VIX

終値: 33.40 期間騰落率: 8.57 (実数値ベース)

VIX

USD

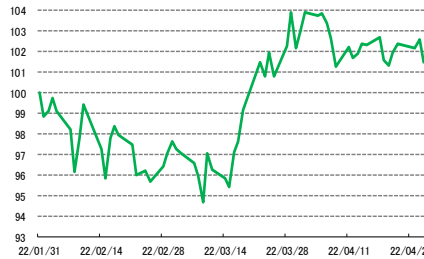


37. 東証REIT指数

終値: 1,975.75 期間騰落率: +1.49%

REIT

JPY

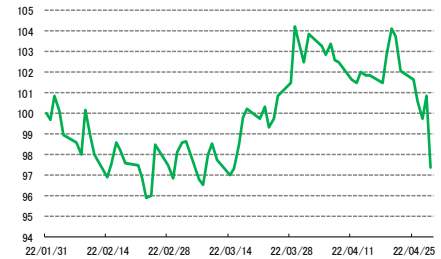


38. S&PグローバルREIT指数

終値: 206.21 期間騰落率: -2.59%

REIT

USD



※ 直近3カ月（2022年2月～2022年4月）の日足チャートです。起点（2022年1月末日）を100として指数化しています（実数値ベース以外）。

※ 各指数につきましては最終ページをご参照ください。

※ ブルームバーグデータをもとに弊社作成。

※ 最終ページの「当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について」をご確認ください。

当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について

当資料は情報提供を目的としてPayPayアセットマネジメント株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中に記載した内容、数値、図表等は、当資料作成時点のものであり、今後、予告なく変更することがあります。当資料で使用している各指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資成果を示唆しないし保証するものではありません。

使用している指数は以下の通り（すべて現地通貨建て）

【株式】TOPIX：東証株価指数、S&P500：S&P500種株価指数、NYダウ：ダウ工業株30種平均指数、NASDAQ総合：ナスダック総合指数、NASDAQ100：ナスダック 100指数、STOXX欧州600：STOXX Europe 600種株価指数、独DAX：ドイツDAX指数、英FTSE100：イギリスFTSE100指数、仏CAC40：フランスCAC40指数、MSCIエマージング（現地通貨建て）：MSCIエマージング・グロス・トータルリターン・インデックス、中国 上海総合指数：中国 上海総合指数(Shanghai Stock Exchange Composite Index)、ブラジルボベスパ指数：ブラジル ボベスパ指数（Ibovespa Index）、インド SENSEX30：S&P BSEセンセックス指数（S&P BSE Sensex Index）、MSCI World（現地通貨建て）：MSCIワールド・グロス・トータルリターン・インデックス

【債券】USD投資適格社債_トータルリターン：Bloomberg Barclays米ドル建て投資適格社債トータルリターン・インデックス、USDハイイールド社債_トータルリターン：Bloomberg Barclays米国米ドル建てハイイールド社債トータルリターン・インデックス

【コモディティ】CRB指数：TR/CC CRB Excess Return Index、WTI原油：WTI原油先物価格1番限、CMX金先物：COMEX金先物価格1番限、VIX：CBOE S&P500ボラティリティ・インデックス

【REIT】S&PグローバルREIT指数：S&P Global REIT USD Index

出所：ブルームバーグ